

支笏湖チップ 泳ぐ姿目の前に

【支笏湖畔】支笏湖漁協は22日、湖で釣った特産のヒメマス(チップ)を生きたまま千歳市役所などで展示するプロジェクトを始めた。チップを市内外にPRする取り組みの一環で、漁期(6～8月末)に合わせて試験的に実施する。



市役所に設置されたチップの水槽。後ろの大型スクリーンでは支笏湖の水中映像をライブ配信する

地元漁協が千歳市役所に水槽展示

漁協は市などと連携し、今月2日から日本橋三越本店(東京)で開かれる予定だった大北海道展で生きたチップを展示する計画だった。しかし、新型コロナウイルスの影響で物産展が中止となり、地元での展示に切り替えた。

市役所本庁舎1階観光課前の展示スペースには22日、幅90センチの水槽が設置。漁協の関係者が湖で釣った体長20センチほどのチップ5匹が放たれた。水槽は水温を12度以下に保ち25日まで展示予定で、期間中は大型スクリーンも設置し、アメマスやウグイが見られる支笏湖の水中映像のライブ配信も同時に行う。

今後、市役所に続き支笏湖温泉商店街などでも展示される計画だ。同漁協の佐藤晴一事務局長は「チップの泳ぐ姿を見られる機会は少ないので、一度足を運んでほしい」と話している。(三坂郁夫)